

# ケーブルカーのポイントの不思議

## ●ケーブルカーの行き違いについて

当社のケーブルカーの線路は基本的に単線で、2両の車両を走らせる為、線路の中央部分に行き違うための複線部分があります。当然、複線部分の出入り口にはポイント（分岐器）があるわけですが、一般の鉄道と違って、可動部分がありません。（写真1）



写真1 複線ポイント部分

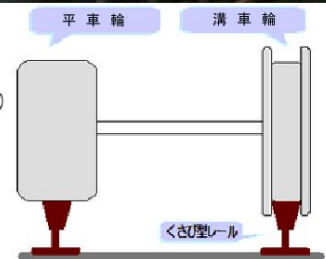
レールは山麓駅から山頂駅まで1本でつながった外側のレールとポイント部分で途切れている内側のレールで出来ています。

レールの切れ目はワイヤーロープと車輪のフランジ（突縁部）を通すためにあります。この切れ目を通過するために、車輪も一般の鉄道とは大きく異なった形をしています。

その車輪の形とは（写真2）に示すように溝車輪と平車輪が左右に配置され、外側のレールを溝車輪（両フランジ）でとらえ、内側のレールの切れ目を平車輪で横方向にスライドして乗り越えるというものです。そのため、平車輪の幅は300mmと広がっています。ちなみに、1号車は山頂に向かい右側の車輪が溝車輪、左側が平車輪なので右側を走行し、2号車は反対で、右側が平車輪、左側が溝車輪なので左側を走行します。



写真2 車輪 左 平車輪  
右 溝車輪(両フランジ)



ケーブルカーには、2両の車両をつないでいるワイヤーロープを支えるための「誘導滑車」や動力部分である「巻上設備」など、他にない特徴がありますが、またの機会にご紹介します。